

熊本地域医療センターだより

院長 廣田昌彦

平成24年(2012年)12月発行

熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311 FAX 096-362-0222

2012 12 月号 通算91号

鮮扇貝



【ヒオウギガイ】

医師会病院理念

『患者さんの権利を尊重し、より良質で安全な医療を提供できるように、医師会会員と一丸となって地域医療に貢献する。』

CONTENTS

2面 市民公開講座

3面 寄稿・上原昌哉先生

4面 松見前看護部長秋の叙勲受章

クリスマスコンサート

市民公開講座

12月1日に当センター新館6階ホールにて「市民公開講座」を開催しました。テーマは「糖尿病と膵臓がん」です。

糖尿病と膵臓がんは関係あるのですか？

代謝内科部長 笹原 誉之



日本人の2～3人に1人が癌になると言われ、糖尿病も10人に1人(中高年者では4～5人に1人)が糖尿病と言われています。当然、糖尿病に癌を併せ持つ患者も多く、最近では糖尿病の死因の第一位は悪性腫瘍です。なかでも膵臓は糖尿病との関係が深く重要な疾患です。膵臓の手術後に糖尿病を発症したり、コントロールが悪化してインスリン治療が必要となることでも膵臓は糖尿病と関係しています。同時に、糖尿病の急激な発症や悪化が膵臓の初期症状の一つとしてとても重要です。今回は、「膵臓の早期発見・早期治療」と糖尿病発症・増悪の関係に注目してお話をしました。

膵臓の症状に特有なものは

なく、「腹痛・黄疸」が約50%、その他「腰背部痛・体重減少・食思不振・全身倦怠感・嘔吐・症状なし」等です。その中に約5%で「糖尿病の悪化」があります。膵臓は特に初期の自覚症状に乏しく、周囲組織への浸潤や転移をしやすいことから予後が悪いことは言うまでもありません。このため他の癌に比べ、早期発見・早期治療の重要性が特に高くなります。数少ない初期の手掛かりとして、急激な糖尿病の発症や悪化では膵臓を疑う事が推奨されています。

当院では平成19～23年の5年間に、糖尿病の発症・増悪を契機に紹介された患者の中から、8例の膵臓がんが発見されています。血糖コントロール不良で当院に紹介される糖尿病患者のおよそ100人に1人で膵臓がんが見つかった計算になります。厚生労働省の報告では一般人口10万人当たりの罹患

率は14.0、また、日本膵臓学会等の報告では、切除率は最近改善しているとは言え40%に満たない状況です。更に、切除症例でもStageⅢ以下は24.1%でしかありません。糖尿病から発見された当院での膵臓症例では切除率は8例中7例で87.5%、臨床病期ではStageⅢ以下が8例中5例で62.5%であり、臨床病期が早期で切除可能な時期の診断・治療が可能でした。更にこれらの症例では、血糖コントロール悪化や体重減少以外ほとんど無症状でした。このことから特に腹部症状等なくても、糖尿病の発症・増悪時(特にその原因が不明であり、体重減少も伴う場合)は膵臓のチェックを行うことが重要であります。糖尿病発症・増悪の段階での膵臓の発見は早期で、より根治性の高い治療が可能となり、予後を著しく改善できます。